

集会には、自民党の衛藤晟一首相補佐官、佐藤正久外務副大臣、有村治子参院議員が出席し、下村博文元文相があいさつ。下村氏は、自衛隊明記の9条改正案は、国会での改憲発議に必要な3分の2の賛成と国民投票での過半数の賛同を得るためのものだと言、安倍晋三の3選に向けた流れをつくっていただき、その勢いで臨時国会における具体的な憲法改正論議に入っていかなければならない」「平成（天皇）の御代のうちに決着を」等と、改憲発議の加速を訴えました、



同会の寺島泰三中央本部長は「憲法改正の論議は昨今の政治情勢、政府の不祥事という逆風により足踏みを余儀なくされた」とし、「今回の機会を逃したら未来永劫、憲法改正の道は閉ざされる」と危機感を示し、「より一層輪を広げ、断固として憲法改正を実現するよう全力を結集しよう」と訴えました。

沖縄県民大会参加の7万人、 翁長氏の志継ぎ「新基地造らせない！」

「土砂投入を許さない！ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地建設断念を求める8・11県民大会」が11日、沖縄県名護市辺野古に新基地を造らせないと、病床で亡くなるまでたたかい続けてきた故・翁長雄志知事の志を受け継ごうと、公園陸上競技場で開催。また、この日は沖縄に連帯して北海道から鹿児島まで全国で、集会や宣伝、スタンディングなどの行動が取り組みられました。

台風14号が接近し、ときおり強い雨が降りしきる中、県内外から7万人が参加しました。「新基地NO」「県民はあきらめない」と書いたメッセージボードをいっせいに掲げ、安倍政権が今月17日にも強行を狙っている辺野古への土砂投入に反対する強い意志を示しました。

知事職務代理の謝花喜一郎副知事は、4日に翁長氏と面談した際、「私が『一日一日、公務をこなし、県民の負託に応えたい』と言ったのは『撤回』のことだ」と話していたと紹介し、「知事の思いを深く受け止め、私たちも辺野古に新基地を造らせないという公約の実現に向けてとりくみたい」と述べ、埋め立て承認撤回に前向きな姿勢を示しました。

翁長氏と高校の同級生だったという城間みきこ那覇市長は「彼はウチナーンチュの心に寄り添ったウチナーンチュの心を体現、表現する行動をしてきた。承認撤回に向けて、手の届きそうなところまであったと思う。無念だったと思う。その遺志を私たち一人ひとりが引き継いでいきたい」と訴えました。

大会では決議が採択され、新基地建設の断念を求めました。その「土砂投入を許さない！ジュゴン・サンゴを守り、辺野古新基地建設断念を求める8・11県民大会決議（全文）」を紹介します。

〈決議文〉

国は、8月17日からの辺野古地先への埋め立て土砂投入を沖縄県へ通知した。現在行われている環境アセスを無視した数々の違法工事は、仲井真前知事が退任の4日前に承認した追加申請によるものである。沖縄県は、沖縄防衛局に対し、再三にわたり工事実施前の事前協議を行うことを求めてきたが、沖縄防衛局はこれを無視し十分な説明を行うことなく、沖縄県民の民意を踏みにじり、環境破壊につながる違法工事を強行し続けている。

7月27日、翁長沖縄県知事は「埋め立て承認撤回」を表明し、8月9日に聴聞を開始した。ただちに国は埋め立て工事を中止し、新基地建設計画を断念すべきである。

私たちは安倍政権と沖縄防衛局に対し強い怒りを持って抗議する。私たちは豊かな生物多様性を誇る辺野古・大浦湾の美ら海に新たな基地を造らせない。沖縄県民の命とくらし、沖縄の地方自治と日本の民主主義と平和を守るためこの不条理に対し全力で抗い続ける。

今県民大会において、以下、決議し、日米両政府に対し、強く抗議し要求する。

記

- 1、ジュゴンやウミガメなどの生きていくための豊かな海草藻場や希少なサンゴ類の生息環境を破壊する土砂投入計画を直ちに撤回すること。
- 2、大浦湾側には活断層の疑いがあり、その付近の海底には、超軟弱地盤が存在する。辺野古新基地の立地条件は成り立っていない。建設計画を直ちに白紙撤回すること。
- 3、沖縄高専、久辺小・中学校、集落は、米国の安全基準である高さ制限に抵触している。児童生徒と住民の生命と財産を脅かす新基地建設を直ちに断念すること。

4、欠陥機オスプレイ配備を撤回し、米軍普天間基地を即時閉鎖・撤去すること。

5、欠陥機オスプレイの国内における飛行を直ちに全面禁止すること。

宛先 内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣 沖縄及び北方対策担当大臣 米国大統領 駐日米国大使
2018年8月11日 辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議

東京では、東池袋公園に2800人が集い、連帯!

都内では「沖縄県民大会に呼応する8・11首都圏大行動」(同実行委員会主催)が豊島区で開かれ、主催者発表で約2800人が参加しました。「沖縄環境ネットワーク」世話人の花輪伸一さんは、「一刻も早く埋め立て承認が撤回され、土砂投入をストップさせることを何よりも強く期待し、支持したい。翁長知事の遺志を引き継ぎ、沖縄の人々、全国の市民と連帯してたたかいを継続し、より一層盛り上げ、新基地建設を中止に追い込みたい」と述べました。

「戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会」の藤本泰成さんは、米兵による事件や米軍機墜落を挙げ「米軍基地は沖縄県民の命を脅かす以外の何物でもない。沖縄と連帯して、命を脅かす全てを日本、沖縄から排除していこう」と力を込めました。

都内の大学3年の女子学生(20)は、昨年訪れた辺野古で座り込む市民らが機動隊によって強制排除されたことに衝撃を受けたと紹介。「沖縄の問題は、沖縄だけの問題にはいけない。政府に近い東京だからこそ、発信しなくてはいけない」と呼びかけました。

憲法会議も暑い中でしたが、旗を掲げ、参加しました。集会が開かれた東池袋公園は、暑い日差しの中、公園内の木々でたくさんの蝉が鳴き声を響かせていました。その暑さ以上に熱いのが参加者。翁長さんの意思を引き継ぎ、何としても辺野古には新基地をつくらせないとの決意を固めあっていました。

各地のとくくみ

石川 憲法会議ら40人で「怒りの昼デモ」

石川憲法会議と憲法を守りいかす共同センターは8日、金沢市の四高記念公園横に40人が集まり、安倍政権の退陣を求める「怒りの昼デモ」を行いました。日本共産党の佐藤正幸県議が参加しました。

出発前のあいさつでいしかわ県民文化センターの安原昭二所長は、8月中に採択される中学校の道徳教科書について、教科書ネットや憲法会議、教育文化センターなど7団体で金沢市以南の教育委員会に「公開の場での公正・公平な採択」などの申し入れ、「個人の尊厳より、国に役立つ人になれ」と教える日本教科書だけは採択するな、と要望した」と報告。

事務局から、安倍9条改憲を許さない「抗議のスタンディング」を19日(日)の正午から金沢駅東口で開催するとの案内がありました。

デモ行進は「平和憲法9条を守ろう」の横断幕を先頭に、「安倍9条改憲NO!」「戦争させない」と書いたパネルを掲げ、「戦争する国づくりは許さないぞ」「安倍内閣は退陣せよ」とコールしながら、繁華街をパレードしました。

安倍9条改憲NO!
沖縄・辺野古新基地建設反対!
安倍政権退陣!
8.19国会議員会館前行動
8月19日 日 16:00~17:00(プレコンサート15:50~)
衆議院第2議員会館前~国会図書館前
主催: 安倍9条改憲NO! 全国市民アクション実行委員会
戦争させない・9条壊すな! 総がかり行動実行委員会